

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4372301202
法人名	有限会社 トータルライフケア
事業所名	グループホーム あゆみ
訪問調査日	平成 20 年 8 月 28 日
評価確定日	平成 20 年 9 月 3 日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOくまもと

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4372301202
法人名	有限会社 トータルライフケア
事業所名	グループホーム あゆみ
所在地	熊本県下益城郡富合町南田尻471 (電話) 096 - 320 - 3160

評価機関名	特定非営利活動法人NPOくまもと		
所在地	熊本市上通町3番15号		
訪問調査日	平成20年8月28日	評価確定日	平成20年9月3日

【情報提供票より】(20 年 8 月 11 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 11月 15日			
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人	
職員数	8 人	常勤4人、	非常勤4人、	常勤換算7.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造2階建て 造り
	2 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	光熱費10,500円管理費1万円	
敷 金	有(90,000 円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200 円	

(4) 利用者の概要(8月 11日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 89 歳	最低	79 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	にしくまもと病院 たまのい内科病院 ハロー歯科
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

熊本市近郊の田園地帯の民家が点在する中に建てられている。併設に有料老人ホームと居宅事業所・訪問看護があり相互の協力体制も整っている。日々のケアのなかでは訪問看護との連携で相談事やアドバイスを受れたり、口腔ケア体操を取り入れたりと特に健康管理面では力を注いでいるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	入居者の健康管理、特に清潔面には留意し、入浴はチェック表をつけ、入居者の負担にならないような配慮で支援している。またその人らしい居室の環境整備にも努めている。理念と目標についての職員間の共有は、再度検討項目として次年度に繋げて欲しいところである。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価に対しては職員の入れ替えもあり、主任と副主任で実施している。今後は全職員が自己の課題や目標を明確にし自らのケアの向上に繋げるような振り返りの機会としてとらえられることを期待したい。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は民生委員・区長・家族代表・行政の担当職員などが参加し2ヶ月に1度開催されている。日常の近況報告や行事説明などが行われている。家族等からの要望や希望などホームの行事として受け入れる事もある。今後は地域の認知症ケアの啓発にも期待がもたれる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	毎月の近況報告の便りや定期的な家族会開催などにより入居者の心身の状況が家族と共有できている。また病院への受診も家族の協力を得て支援されている。相談ごとなどもホームで解決できない事柄については、行政の窓口も紹介しており丁寧な対応がなされている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	中学校の運動会参加や子供110番など徐々に自分たちに出来ることから交流が広がっている。さらに地域活動への参加や災害対策など、これからは地域の一翼を担うための取り組みを期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立当初からの理念および職員で定めた目標を掲げ、家族や地域に向けても説明啓発するよう努めている。		ホームの理念が入居者・家族、職員・地域にとっても認知症や認知症ケアの啓発を促す役割を担うための理念となるよう再度検討されることを望みます。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のケアが入居者に満足してもらえているか、行っているか等を職員会議等の際には振り返り確認している。		管理者・職員間で理念と目標について再度確認しては如何でしょうか。
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩道のごみ拾いや、子供110番のかけこみ場所として登録しており、身近に出来ることから地域との交流を広げている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員に対して評価の意義については話をしているが、今回は主任クラスで話し合い実施した。		自己評価を実際行うことは、職員のケアの振り返りに繋がるためにも検討下さい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回民生委員・区長・家族会代表・行政の担当者等を交えて開催している。ホームの近況報告や外出行事などについて話し合い、意見交換を踏まえてサービスの質の向上につなげている。		

グループホーム あゆみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者は運営推進会議に出席してもらう以外にも相互に情報交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	緊急時や必要時、更に担当職員が毎月入居者の近況報告の手紙を出すようにしている。また「あゆみ」新聞を3ヶ月に1回発行しその中に同封している入居者の写真は家族に喜ばれている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会等の際には家族が意見や希望など述べやすいような雰囲気作りに心がけ、サービスに活かせるよう努めている。また、ホーム以外にも町の行政の窓口も紹介している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年に入って離職者が続き、外出など必要な場合は併設施設から応援を受けている状況である。		ケアの質の向上に向けた支援を心がけていかれることを望みます。
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内では年間計画をたて、定期的に併設の施設と合同で勉強会を行っている。外部研修には必要に応じ、参加している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宇城地区の管理者会議に主任が参加している。		研修や情報交換の場として職員の交流の機会となるような支援を期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前には本人や家族に見学してもらい納得した上で決めてもらうようにしている。入居前に情報を収集し、把握した情報は職員みんなで共有し、馴染んでもらうよう努めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>一人ひとりの生活歴や性格など把握し、その人にあった生活ができるよう場面作りなどに配慮している。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>家族からの情報も取り入れ、日々の生活の中から思いを把握して、出来るだけ本人の希望や意見を取り入れる努力をしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居時に病院や家族から情報収集をし、一人ひとりの状態を把握し、計画作成担当者がケアプランをたてている。それをもとに、担当者が個別のプランを立て、ケース会議に図り完成させている。作成したものは本人や家族にも了承してもらっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>本人の状態変化の場合はその都度変更しているが、変化がなければ3ヶ月ごとに評価を行い、ケース検討会議にかけ見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	訪問看護との連携をはかっており、入居者の毎日のデータを報告しアドバイスを受けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診には家族の協力も得られており、月に1度は内科の往診も行われている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族からの申し入れがあれば希望に沿う方針であり、家族にも説明している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	方言や丁寧語の使い分けなど一人ひとりにあった言葉かけや対応に心がけ、個別的なプライバシーの確保に配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員数減で十分に対応出来ていない状況にあるものの出来るだけ一人ひとりのペースに合わせた支援ができるように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望を取り入れながら職員が1週間分の献立をたてている。週に2回程度の買い物には入居者と一緒にでかけており、テーブルふきや後片付けは状態に応じて一緒にしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日準備して、入浴拒否の人には言葉かけなど工夫し配慮しながら、なるべく2日に1度は入ってもらうよう努めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割などその人が得意なものを把握し、能力が発揮できるような支援をしている。また月に2回生け花をほぼ全員の人に楽しんでもらっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	なかなか本人や家族から希望はでないものの、あれば散歩や日光浴など支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中はチャイムやセンサーにて安全確認を行い、鍵はかけていない。身体拘束に関する研修を行い、鍵をかけることの弊害も理解している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム周辺は降雨時に道路冠水することもあり、特に水害には、対応を留意し心がけている。		災害対策においては、昼夜を想定し職員・入居者、地域を巻き込んだ連携を望みます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養状態や脱水予防に留意し、食事・水分摂取量は毎日記録してその人に沿った支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のリビングは和室や畳のコーナーがあり一人ひとりがそれぞれ好きな場所でくつろげるようになっている。こざっぱりとしており居心地よい空間になっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやタンス・テレビなどそれぞれの持ち込みがあり、その人らしさがうかがえる。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム あゆみ
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	下益城郡富合町南田尻471
記入者名 (管理者)	下山 真代(役職:主任) (管理者:奥村 好誠)
記入日	平成 20年 8月 10日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	独自の理念を掲げ、理念に沿ったケアを行なうように心がけている。また家族や地域への説明と啓発を行なっている。	運営推進会議の際などに認知症についての情報発信などを行なっている。
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	朝礼時には理念唱和を行なうようにしている。ケース会議や職員会議の際、理念に沿ったケアとなっているか確認するようにしている。	スタッフそれぞれが理念に沿った介護が出来ているか確認していきたい。
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	理念は事務所と談話室、玄関に掲げ目に付きやすいところに掲げており、目に付くようにしている。また、入居時や家族会、運営推進会議の場でも説明できるようにしている。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	散歩やゴミ捨ての際は挨拶を行い、交流を図っている。近くの水路に釣りに来られた方に、竹の子など頂ける様になった。また、かけこみ110番にも登録され、地域の子供達の安全確保に努めている。	町内の文化祭参加を検討しており、より地域交流が出来るのではないかと期待している。
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	町内の民生委員の会に参加したりはしている。また、中学校の運動会に参加している。近所の散歩の際にはゴミ拾いを行っている。自治会、老人会、行事等、地域活動には今のところは参加できていない。	南田尻地区の行事参加を予定しており、今年は昨年より地域交流が出来るのではないかと期待している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	職員会議にて取り組み等は検討しているが、具体的には実施例はない。		具体案が発想につながっていないので、検討していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	外部評価については理解できていると思われるが、昨年の改善点がすべて結果に繋がっているとは判断できない。		外部評価の改善点を元にケアの質の向上に努めたい。
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	毎回、入居者の利用状況や生活ぶり、近況報告、会議前後の行事等の報告や情報交換を行なっている。		地域活動への参加が少ないので、計画・実施が出来るようにしていきたい。
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	必要時は相談や空き情報等の内容を電話にて連絡できる状況にあり、近隣市町村とも行なっている。		引き続き必要なケースや場合は連携を行なって生きたい。
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	研修等があれば参加できるようにしているが、最近では参加できていない。また、左記事業が必要なケースは今のところ出ていない。		スタッフにも研修参加するよう働きかけていきたい。
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	年間計画に上げ勉強会を行なっている。スタッフの言動や行動に注意を払い、ストレスケアにも心がけている。		虐待の具体的例も勉強会や、外部情報を取り入れて行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時や対処時に対象者と相談するようにしている。グループホームでも出来ないこともあり情報交換できるようにしている。入居時の要望やしたい生活等について聞きだすようにしており、ケアプランに生かせるようにしている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	種々の希望を見逃さないようにし、職員会議にて検討できるようにしている。(食事の味付けや、洗濯物たたみや選択干しなど) 苦情が出た際は、早急に対応するようにしている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、担当職員が近況報告の手紙を出すようにしている。また、必要時や緊急時は家族と情報交換を行なっている。預かり金の使用状況については一覧表と合わせ使用分領収証をまとめ発送している。家族会にて新人スタッフ紹介も行なっている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に説明を行なっている。また、当事業所以外に、行政や国保連の窓口を紹介している。家族や関係事業所が来所の際に尋ねる機会があれば言って頂き、施設運営に反映できるようにしている。		書面等の記載内容がないため、情報の保管を検討して行きたい。また、発言しやすい環境や雰囲気を作りたいと考えている。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている			
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	安全確保や業務遂行できるように必要時は調整行なっている。		現在、必要スタッフ数減の状態であるため、人員確保を依頼している。
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現状として今年2月より退職者が続いている。ケアの質の確保が困難と思われる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加を促している。特に宇城地区GH管理者会主催や、他機関主催などの研修(外部研修)参加を勧めている。	参加者が少なく、今後も自己啓発を勧めて行きたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宇城地区GH管理者会において職員交流会が毎年行なわれており、参加するように勧めている。	参加が少ないため、勧めている。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	自分の意向が表現できる方は、意向を聞き漏らさないようにしている。表現できない方については、家族や関係者に情報収集している。表情やうなずき、言動に注意を払うようにしている。また、行動パターンを出来るだけ早期に判断を行なうようにしている。	発言や行動をとりやすいような雰囲気や環境を作って行きたい。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	施設見学や申し込みの来所の際に困っておられることや、入所後の要望について聞くようにし、記録するようにしている。	記録があいまいな場合もあるため、徹底して行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来るだけ見極め、必要な場合は他事業所を紹介するようにしている。他市町村より相談等があった場合は対応している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まずは施設見学にきていただくようにし、本人または家族が納得した上で入所いただくようにしている。		体験利用等を行っていないが、今後できる環境となった場合はまずは体験利用から進めていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	個人の性格や認知状態を把握し、役割を持った生活が出来るように働きかけている。(洗濯物干しやたみ、食事準備やかたづけ)		入居者の方々の能力を引き出していけるように努めたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族来所時は情報交換を行い、本人の希望を汲み取れるようにしている。また、本人の希望を満たされるようにどのような支援が出来るか話し合っている。		家族面会の機会の増加を働きかけていきたい。定期受診の際、家族の付き添いを依頼している。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	以前の生活ぶりや、心がけていたこと、家族との関係性を聞きだしケアでの会話等に反映できるようにしている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が大切にしている物や、大切に思っていた事を聞き出し、生活環境でも滞りがないようにしている。(使い慣れた家具等やアルバム、衣服などの持ち込み等。)		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う利用者、不仲の利用者などを把握し活動などの際には不快なく過ごして頂ける関係の向上に努めている。		引き続き、入所者同士が不仲にならないように、声かけや誘導など働きかけていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院の際などは面会に行ったりし、スタッフ間で情報の共有をしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向を出来るだけ取り入れ、困難な際には家族に相談を把握できるようにしている。		意向の汲み取り方の勉強会などに参加できるように努力したい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人に会話の内容や、家族からの情報で把握できるように心がけている。		生活歴等の情報が分かり次第、スタッフ間で情報共有できるよう記載するようにしたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの状態を把握し申し送りの際など、引継ぎを確実にこなすようにしている。その日の、一日の生活が安定した生活となるように心がけている。体調変化の際や、言動が不安定の際は医療機関受診などを行なっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケース会議でのケアの見直しや、新ケアの調整などを行なっている。家族が遠方の場合や、面会機会の少ない方は電話での確認は行なっているが、面談等は確実にはできていない。		家族との話し合いを確実に行いながら、本人・家族の要望にこたえられるプランを作っていく。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入退院の際などはケア内容の変更を家族とも話し合い検討し必要があれば計画変更している。また、本人の状態変化によりケア内容変更の必要がある際は適宜変更している。今まで、ケアプランと個別ケア計画が別物として動いていた経緯があるため、現在連動するように変更している段階である。		今後は、統一ケアが徹底できるようにしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	以前に比べると記録は充実してきているが、一変等の内容となっていることがある。変動があった際は、適宜ケアの変更を行うようにしているが、実際計画の書面では残っていない。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	訪問看護との医療連携を行っており、体調変化時のアドバイスや指導を受けたり、理学療法士との情報交換や相談対応を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	最近は本人の意向などで、左記内容との協力は希望がないが、昨年同様消防署からの救急蘇生法指導などは行われている。今年春の避難訓練は自主訓練となっている。踊りや音楽療法のボランティアが来られ、楽しまれていることもある。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	前回の評価時期から、外部サービス利用はない。希望もなし。		希望があれば、事業所とも検討し利用できるよう支援していく。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在のところ、協同が必要なケースはない。入所問い合わせ等の際は、情報交換など行っている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	できる環境にあり、支援できていると思われる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科受診を必要な方は行っており、病状によって相談対応してもらっている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	スタッフ内に看護師がおり、対応している。また、訪問看護とも連携が取れている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は退院に向けて、MSWと情報交換を行い多少の処置が必要な場合でも退院できるよう調整を行っている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在のところ、協同が必要なケースはない。入所問い合わせ等の際は、情報交換など行っている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在のところ、看とりまで行ったケースはない。本人の状況により、看取りまで希望があれば、対応できるよう検討していく姿勢はあるが、実際どの程度まで希望に添えるかは判断できない。		終末期まで対応できる環境構築が必要である。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	前回の評価時期から、外部サービス利用はない。希望もなし。		対象者があれば、対応して行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個別적으로対応できていると思われる。方言が良い方や丁寧語が良い方など使い分けはできている。本人のプライドを傷つけないように心がけている。	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人ができる理解力を考え、選択的できる場面を設定したりしている。	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ対応できるようにしているが、スタッフ数減の状態であるため、十分にはできていないと思われる。散歩や外出したい際は、他事業所より応援に来てもらっている。	スタッフ数を確保し、個別적으로対応できるように支援していきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容・美容は本人の望む店に行けるようにしている。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いには対応している。食事準備や片付けは一緒に行っている。	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲酒と喫煙は現在の入所者には不在である為、対応していない。おやつや飲み物はできるだけ好みの物の希望があれば対応している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>排泄間隔や排泄状況に応じて衣服の使用法や、下着または紙おむつの使用方法を検討し対応している。</p>		<p>紙おむつ代がかさむ方は、できるだけ無駄使いが無いようにし効果的使用ができるように支援したい。</p>
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>曜日は決めていないが、日中と時間帯は決めている。本人の意向に沿うようにしている。(声掛け。誘導など)</p>		<p>夜間帯に希望があれば、対応できるようにしていきたい。</p>
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>就寝時間は翌日に体調不調にならない程度に調整したり、寝具調整を行っている。眠剤使用の方は時間と睡眠の程度を見ながら内服介助を行っている。布団干しは最低一回/週は行い、失禁の際は都度干している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>洗濯や掃除など得意なものはしていただくようにしている。月に2回は生け花を行っており、ほとんどの方が楽しんで参加されている。散歩や日光浴なども行っている。</p>		<p>何か別の楽しめるものがあれば、見出し体験できるようにしていきたい。</p>
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>財布などは個人で保管できるようになっているが、実際には買い物などで使用されるほどは金銭が入っていない。買い物に同行し外出されるが、自分で払おうと言う行動の方はおられない。預かり金がある為、必要な際は本人に渡して使用できる環境にある。</p>		<p>希望があれば、金銭的管理の能力活用できるよう金銭を渡して支援していきたい。</p>
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>散歩や、日光浴など希望があれば、できるだけ添えるようにしている。家族や本人からの外出支援やドライブや買い物などの要望は殆んど聞かれない。</p>		<p>要望があればすぐに対応できなくても、近日中には対応できるようにしていきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>毎月1回はお宮参りや外出行事を取り入れている。また、定期的に家族会を開いており、近隣の公園にて交流や、外出後の食事会などを行い、家族の方などと出かける機会を作っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望の際などは電話をかけて話していただいたりしている。また、電話がかかってきた際も可能な限り、会話していただくようにしている。ただ、手紙のやりとりをしている方は現在のところおられない。(自分からの発送)。		本人の能力維持の為に、文字が書ける方や、家族との交流ができる方は、働きかけていきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の制限は設けていない。自由に面会していただいている。家族のみでなく、近所の友人や、ボランティアの方が近所からだったり、次第に交流が出来ていると思われる。また、出来るだけ、ゆっくりとした時間を過ごしていただけるよう、面会時は各個人の居室にてされても好い事勤めている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昨年より身体拘束に関する勉強会も行っており、スタッフ全員が拘束となる条件であったり知識向上に努めている。また、実際に行っていない。		引き続き禁止項目についても勉強会に取り入れれたり、外部研修等で知識の充実を図って行きたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は常に玄関の鍵はかけていない。玄関チャイムやセンサー音にて安全確保を行っている。6月に離ホームが3ケース発生しており、現在は安全管理責任者を置き、入所者の様子確認を定期的に行っている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常時、ホールまたは談話室を見守るようにスタッフを置いており、入所者の所在確認と言動または行動の様子を把握できるようにしている。ただ、居室内での転倒事故も発生しており、居室内の安全確保を検討している最中である。		充分には出来ていない部分もあり、今後のリスク管理として防止策を検討して行きたい。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	収集癖のある入居者がおられるが、収集される物の種類が今のところ限定されている為、危険物のみ(ハサミ、カッター類)片付けるようにしている。洗剤や消毒薬等は目に届かない程度に保管している。居室内には特に荷物の限定はしていないが、仏壇を持ち込んでおられるがチャッカマン・ロウソクは施設管理としている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>勉強会や外部講習に出向き、リスク管理が出来るように日々心がけているが、転倒・誤薬・離ホームのケースを発生しており、諸対応を行っている状態である。</p>		<p>今後、事故発生が起きないように対応策を充実して行きたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応や救急搬送にの対応について、勉強会にて情報の共有と、訓練を行っている。		全スタッフが対応できるように訓練の継続が必要である。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	行政より災害時パンフレットを配布しており、避難所等の確認は出来ている。本事業所周辺は道路冠水することが多く、近隣消防団の土嚢積みなどの協力をいただいている。また、2回/年の消防訓練・避難訓練を行っている。近所の方々の参加の訓練体制は出来ていない。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	防止できる事故やそうでない事故等については、入所申し込み時や、その後の面談時に説明するようにしている。出来るだけのびのびとした生活を過ごしていただけるよう支援している。		相互に理解を深め、誤解のない表現などを使い、食い違いの無いようにしていきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、朝食後に健康チェックを行い日ごろの状態を把握するようにしている。一日の状況を見守り、必要があれば主治医と連携を図り受診している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全入所者の服薬管理を行っており、処方箋内容により左記内容理解するようにしている。また、全スタッフに周知徹底出来ていない部分はあると思われる。服薬介助が必要な方には、確実に内服していただけるよう支援、誘導等を行っている。		情報の共有化が出来るように全スタッフに周知徹底して行きたい。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給や運動機能の活性化(レクリエーションや散歩など)を行い、腸蠕動運動を促している。また、食物繊維を多くとっていただきたいため、野菜や果物なども活用するようにしている。オリゴ糖を甘味料として使用し、腸内の細菌の活性化を図っている。		便秘傾向の方がおられるため、体調管理や内服調整を徹底して行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>毎食後、各入所者に合わせて口腔ケアを行っている。また、1回/週はポリデントにて清潔にしているが、その他不定期にポリデント行う場合もある。訪問歯科より1回/週往診していただき、医療的管理と、口腔ケア指導を行ってもらっている。また、食前に口腔体操を行い、嚥下力低下防止に努めている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量と水分摂取量については毎日記録し、栄養状態管理と脱水予防に努めている。元々、食が細い方もおられるので盛り付け量も勘案し対応している。体調変化時は、その都度、主治医と相談し高カロリー飲料等で対応したりしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い、うがいをスタッフと入所者がかかわらず行っている(毎食前、外出後、受診後等)。アルコール製剤等も活用している。また、インフルエンザ予防接種も毎年入所者とスタッフ共に行っている。		疥癬や肝炎などに対する感染対策マニュアル等がないため、作成し、感染症予防に努めて行きたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、まな板や布巾の消毒も行っている。また、お盆は日光消毒も適宜行っている。食材購入は、2~3回/週入居者と一緒に購入している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関もバリアフリーとなっている。また、靴がはきやすいように腰掛け部分や縦型手すりの設置がある。また、3枚引き戸になっており、車椅子の方でも出入りがしやすいようになっている。玄関先にはコンクリート製のスロープ設置あり。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フローリングの部分が多いので、スタッフもスリッパでもあまり音がしないものを出来るだけ使用するようにしている。間接照明を多く取り入れ、直射日光や日光の反射などがない環境にはなっているが、全体的に暗いと感じる場合もある。飾り付けていると、片付け、居室に持ち帰られることがあるので、十分には出来ていない部分もある。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室にて読書をしたり、一人でテレビを見たり出来る空間がある。気の合う人同士で談笑したりされている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	衣類や寝具、ベッド、筆筒などを持参していただき出来るだけ自宅と同様の空間を作りあげられるようにしている。ただ、新規入所者の方は新しいものを持参されることが多いため、入所説明時になじみのものを持参いただくようお願いしている。		入所者によっては、家具も少ない方もおられるので居心地よく過ごせるような空間を作り上げて行きたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気の入替えを行っており、便臭や廃棄物臭がこもらないようにし換気を適宜行っている。最近は空調機の交換もされている。空調についても小まめに調整行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活空間全般に手すりを取り付けてあり、転倒防止や歩行訓練等に利用できる。足が引っかかるなど危険箇所には保護カバー等使用している。		危険箇所の把握と整備が出来るように努めて行きたい。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自室と理解していただけるように、なじみのものや場所表示が出来るように心がけている。混乱されている場合は不安が増さない声かけ誘導するようにしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭などに出れるようにしている。洗濯物干しや取り込みなどの際も、雰囲気を感じていただけるよう声かけするようにしている。気候の良い頃には、外で食事会やおやつ時間をとることもある。		中庭にはスロープが無いので、車椅子の方は利用できない。今後、施設内で検討できれば折畳式スロープ等の活用が出来るようにし、車椅子でも庭へ出れるようにしていきたい。

・サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入所者様の安全と安心をモットーに職員全体で、日々ケアの充実とケア内容向上に向けて頑張っています。今年は中学校の運動会にも参加することが出来たり、地域との交流を目的に夏祭りも計画しています。気軽にお茶でも飲みに来て頂けるような、開かれた施設でありたいと取り組んでいる所です。